

# UNIVER-CITY 柳ヶ瀬 大学地区の空間整備

## 地区南西のスクエア

玉宮通りと大学地区中央のスクエアとを繋ぐ動線となるスクエアを整備し、市が管理する。金公園から連続する緑のネットワークとして位置付ける。整備は次のように行う。

- ① 広場外縁部の適所にベンチを設置し、学生や市民に提供する。
- ② レンガ通りに面した平屋の建物は岐阜大学が借り切り、教室として利用する。教室の出入口を広場側に設け、講義の休み時間を過ごす学生の場所となる。
- ③ 広場中央部付近に岐阜大学の施設を建設し、教室だけでなく、市民も利用可能なラウンジなどとして利用する。建物の一部はテナントを募集し飲食店を運営する。



## 地区中央のスクエア

これまで形成されてきた街の区画は資産。特徴であるアーケードは効果的に使用する。このスクエアは次の手順によりつくられる。

- ① 大型スーパー跡を市が買い取り解体する。
- ② 公園として整備する。この敷地を取り巻くアーケードが公園を開く回廊となる。
- ③ 回廊として機能する街路部分は、沿道の飲食店の占有を届出により許可する。各沿道の店舗は、可能な限り広場へ眺望を広げるように改修する。
- ④ 南端にある水路（アクアージュ）までスクエアの一部を掘り下げて水面へ近づけるようにする。

このスクエアは、他に整備するスクエアと視覚的に連続性を持ち、その中に歩行者の主要動線が形成される。金公園から連続する緑のネットワークとしても位置付けられる。

大学施設はここを中心に分散し、市街地の中心としても多くの人々の利用を受け入れる。



一連の施策の効果として

柳ヶ瀬本通りにも活気が戻る。この通りは、周辺の駐輪需要を集約する大駐輪場がある。両脇の店舗には飲食店や物販店が立ち並び、通りの中心に位置する現在のオアシス柳ヶ瀬の敷地には、住民や学生たちの憩いの場が設けられている。その眺めは、過去、栄華を極めた柳ヶ瀬本通りの界隈を彷彿とさせる。

## 大学地区の土地利用



- 一部を大学へ賃貸している建物
- 大学が所有・運営する建物
- 市が所有・管理をする敷地
- その他の建物
- 主要な歩行者動線
- 自転車専用道
- 緑のネットワーク



模型は1:200で作成。ダークグレイの部分は、建物内の教室を示す。

## 大学と街の機能をとともに高める方法

### 現実的な移行プランと基盤整備

1. 学部・大学院の講義のうち特別な実習施設を必要としないものは全て、柳ヶ瀬の教室を使用する。岐阜大学の研究室は、柳ヶ瀬周辺へ研究室を移転することを優遇する。
2. 岐阜大学と柳ヶ瀬の間に自転車専用道を公共事業により建設。柳ヶ瀬北西部に市営の駐輪場を設置する。
3. 岐阜市は、地区内に存在する大型店舗ビルを整理し、公園（スクエア）を建設したり、民間デベロッパーを使って大学地区南東のビル下層を吹抜けにしてエントランスの複合施設を建設する（既存建物の改修）など、大きな空間変更を実施する。

### 教育施設の細かな分散—すべての主体が勝つ方法

教室維持の方法  
区画内の家主から可能な限り大学の教室スペースを賃貸する。20年間の使用を条件として、大学は賃貸する教室を改装して使用する。

市街地の地主は土地を売りたい、大学も土地を買う予算がない、という状況において、双方にメリットのある方法。

- ・ 大学施設を市街地に受け入れると学生生活の場が柳ヶ瀬に集中する。
- ・ 1教室平均200万円/年程度とし、さらに教室を持つことによる店舗などへの来客効果が大いいため家主へのメリットが大きい。
- ・ 大学教育（特殊な実験装置・実習場や運動場の必要でないものに関してはすべて）が柳ヶ瀬で行われるならば、教育経費として大学はこれを賄うことができる。

### 独自の事業財源の創出

岐阜大学柳ヶ瀬キャンパスの土地を販売あるいは賃貸して、大学施設建設の財源とする。

- ・ 柳ヶ瀬キャンパスから教育関連施設が大幅に柳ヶ瀬へ出ることになるため、柳ヶ瀬キャンパス内は土地が余ることになる。近日中に東海環状自動車道のインターチェンジが柳ヶ瀬キャンパス北隣に建設される予定であるため、利便性を求める企業などの需要がある。



## 地区エントランスの創造

長良橋通と徹明通のなす角にある8層の建築物が、現在は南北を絶つように配置しているが、この地区に大学の教室が展開していることを象徴的に示すように、市は民間デベロッパーを使ってこの建物を改修し、大学地区へのエントランスを空間的に演出する。

主な整備は以下の通り。

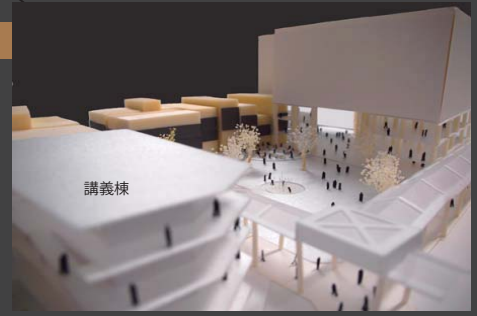
- ① 下3層に吹抜けのブロムナードを設け、南北の歩行者動線を形成。大学生にとっては毎日の主要アクセスとなる。幅員は広くとる（約10m）。
- ② 吹抜けを囲む建築部分は民間のテナントが入る。ガラス張り壁面とし、内側から吹抜け部を通過する歩行者を眺められる。増加する需要に対応して4~7層にも民間テナントが入る。
- ③ 最上層（8層）に大学施設と大講義室が入る。ここからは、窓下に北接するスクエアの風景を見下ろすことができる。

吹抜けのブロムナードは、この建築物を縁取りにして、地区の奥まで視線の届くピスタを形成する。この視線の先には、緑のネットワークが続き、数々の建物の中に大学の教室が点在する様子を見通すことができる。

## エントランスのスクエア

改修されたエントランスのビルに北接する敷地を、岐阜市が買い取り、公園（スクエア）を建設する。エントランスを通り抜けると最初にこのスクエアを通ることとなる。この特徴は、以下の通り。

- ① 全般的に日陰になりがちなスペースであることから、芝生ではなく、一面に硬い舗装とし、適宜植栽をする。北西に位置する中央のスクエアへ向けて緑のネットワークを形成する。
- ② 南東隅にカフェテラスを設ける。エントランスのビル内部のテナントが経営をし、特に夏場は心地よい日陰に寛ぐながら人々の往來の様子を眺めることができる。
- ③ 主要な動線の脇に噴水を設ける。スクエアの舗装面とほぼ同じレベルに配置し、子供が噴水の中で遊ぶことができる設計とする。
- ④ 長良橋通沿いの建築物の1階部分は、スクエア側にも出入口を設けて、一体的に使用する。



## 既存建物を改修して岐阜大学講義棟に

エントランスのスクエアと中央のスクエアの間に位置する商業施設跡の建物を、大学が買い取り、改修して講義棟とする。スクエアへの眺望を意識して外装を変更し、講義時間外の学生の居場所として成立させる。この建物は、エントランスからアイストップになる。

## 岐阜大生まほちゃんの日

AM 7:30 下宿先のおばさんの呼び声が聞こえる・・・おはようございます！今日は、ニコ柳ヶ瀬南商店街にある教室で講義だから、朝はゆっくりできるね。

柳戸と柳ヶ瀬のキャンパスについて  
体育や専門的な実験・演習等、特殊な施設が必要な授業は柳戸キャンパスで開講され、他はすべて柳ヶ瀬で開講される。カリキュラムが調整されて、曜日毎に柳戸と柳ヶ瀬に振り分けられている。

AM 8:00 今日は、モーニングにしようかな。おばさんは、私が下宿している部屋の下の階で、喫茶店を経営しているの。おばさんが焼くパンは、いつもおいしい！

商店の空き部屋を下宿先  
商店などの店舗の空き部屋を、学生下宿として貸し出す家主も現れる。学生の生活面や安全面が向上するだけでなく、住民との交流が促進される。

AM 8:30 今日って、どこの建物で授業なのかな？スマートフォンで検索してみよう！

ICT=大学施設の把握システム  
ICTの端末は、学生が所持するスマートフォンである。利用者は、授業が実施される教室の場所、自習可能な空き教室、それら教室への経路、時間割などが把握できる。同じ情報は、地区内の掲示板でも確認できる。ICTアプリは学生、大学、住民、商業者に配布され、相互に情報発信することで戦略的な活動が展開できる。

AM 8:40 あれ？午前中は両なんだ・・・けど、大丈夫。教室までは、アーケードを通って行けるから、暑も濡れなくて安心。

AM 8:50 1限目は人文地理学だ。この講義は、まちそのものが題材で、実際に柳ヶ瀬を歩くの。こんな授業は少ないけど、柳戸教室で受講するより身近に学べて、本当に面白い！

AM 10:20 さあ、次の教室に行こう！アーケードの廊下には、魅力的なケーキ屋さんや雑貨屋さんまで並んでいて楽しい。

AM 10:30 この教室では、私の好きな数学の講義。座学もいけど、息遣いに見える広場で、友達とお茶したいな～そうだな。今日のランチは広場で食べよう。よし、やる気だ。

AM 12:00 広場を眺められるアーケード内のカフェテラスでサンドイッチ。ここは行きつけのお店。今日はなんとおまけつき。昨日のお手伝いのお礼だよ！でも・・・残念、買ったはいいけど満席。あれ？素敵なスイーツの人が相席していいって呼んでるよ！地元の企業でばり働いている人だった！格好いい面白い話がいっぱい聞いた。今日は、いろんな人と出会えるね。

学生と多くの世代とのコミュニティ形成  
柳ヶ瀬には、あらゆる世代の方と密接にかかわる機会が溢れている。

・・・今日の授業が終わった後・・・

PM 2:50 これからテニスサークルに行こう。って、その前にカフェで友達と話しかかな？新しい服も探したいな。

PM 3:00 天気も良かったから、自転車で柳戸キャンパスに行こうかな。柳戸までの街並みはすごくステキ！新しくできた「ぎふメディア commons」も通るんだよ。

スマートアクセス  
柳ヶ瀬・柳戸間は、岐阜バス、自転車専用道路によって結ばれる。いずれの路線も、岐阜駅・柳ヶ瀬・ぎふメディア commons・柳戸を経由する。岐阜バスとは、大学関係者に対して低料金運行を実施する。カリキュラムに応じて運行する。自転車専用道路とは、市によって整備された自転車道である。柳ヶ瀬・柳戸間は約20分で結ぶ。

PM 5:40 テニスも満喫したし、そろそろバイトに行こう。

PM 6:00 バイト先は、柳ヶ瀬にある学生たちが独自に運営しているカフェだよ！このカフェは良い雰囲気な職場で、私の天職。失敗もするけど、みんなで協力しながら、ベストパフォーマンスを目指しているよ！今日は、お客さんからいろいろなアドバイスももらったり、食材をもらったりしたぜ。

街づくりにかかわる機会も多い  
学生が自らが店舗を運営する機会に恵まれ、一人一人の主体的な活動が促進され、実践的な取り組みを経験することができる。

PM 10:00 玉宮通りで女子会。終電を気にしなくて良いし、歩いて帰るところに家があるから安心。柳ヶ瀬に下宿をしていて、本当に良かった！

学生のまちなか移住の利点  
柳ヶ瀬に住むことが、学生、住民の双方にとってより充実した住環境と教育環境の形成が望める。